

## 【さいたま市史 通史編 原始・古代Ⅱ】

口絵写真

発刊にあたって

はじめに

凡例

目次

### 第一章 弥生時代

#### 第一節 弥生時代のあらまし

#### 第二節 弥生時代とは

##### 一 弥生時代とは

弥生時代の定義

水田稲作の原郷・米はどこから来たか

列島内における水田稲作の広がり

弥生時代の年代測定

弥生時代の時期区分

コラム 弥生時代の開始年代を巡って

##### 二 弥生時代の生態環境

気候の変動と社会の様子

地形環境

##### 三 弥生時代の利根川と荒川

さいたま市域を取り巻く自然堤防

荒川低地の利根川流路跡

弥生時代の利根川・荒川

中川低地の渡良瀬川水系

コラム さいたま市の弥生文化研究の軌跡

##### 四 弥生文化におけるさいたま市の位置

遅れた水田稲作の開始

農耕文化の最前線－さいたま市

#### 第三節 農耕開始期のさいたま市

##### 一 農耕開始期の遺跡を探る

関東における水田稲作の開始

前期から中期前半の遺跡

石器にみる農耕社会への移行

中期中葉の遺跡

- 二 レプリカ法からみた穀物栽培の開始
  - レプリカ法
  - 弥生時代前半
  - 弥生時代中期中葉
  - 弥生時代中期後半
    - コラム 考古学研究の多様化
- 三 農耕集落のひろがり 紀元前一世紀頃
  - 中期後半の関東地方
  - 荒川低地から大宮台地南端部
  - 芝川流域
  - 綾瀬川・元荒川流域
  - 環濠集落
- 四 食物の調理法
  - 弥生時代の食料
  - 調理の空間
  - 調理用土器の種類と大きさ
  - 磨石と石皿
  - 見えない木製調理具
- 五 石器から探る交易と流通
  - 弥生時代の石器
  - 関東地方の弥生時代の石器
  - さいたま市域から出土した石器
  - 遠くから運ばれてきた石器
- 六 方形周溝墓と土器棺墓
  - さいたま市域の弥生中期後半の墓
  - 方形周溝墓
  - 土器棺墓
- 七 集落の廃絶—人はどこへ—
  - コラム 宮ノ台式土器

#### 第四節 農耕発展期のさいたま市

- 一 一世紀頃の地球規模の気候変動
  - 急激にしぼむ地域社会
  - 一世紀頃の気候変動
- 二 人影の見えない大宮台地 一世紀頃
  - 一世紀頃の関東地方
  - さいたま市域の社会状況
- 三 変貌する地域社会 二世紀前半頃
  - 東海地方からの移住者

- 武蔵野台地北部への移動・拡大
- 大宮台地への進出
- 四 新たに進出した人々のムラ 二世紀後半頃
  - 弥生時代後期後半の関東地方
  - 大宮台地南端のムラ
  - 綾瀬川流域のムラ
  - 荒川低地自然堤防上のムラ
  - 自然堤防上の周溝持建物
    - コラム 弥生町式土器
    - コラム 土器砕粒を使った土器製作—当時のリサイクル
- 五 レプリカ法からみた穀物栽培の展開
  - コラム 双角有孔土製品
- 六 住まいとくらし
  - ムラの人々
  - 住居の平面形態
  - 竪穴住居の内部構造
- 七 環濠集落と方形周溝墓
  - 弥生時代後期の環濠集落と方形周溝墓
  - 井沼方遺跡の環濠集落と方形周溝墓群
  - 環濠集落
  - 方形周溝墓

## 第五節 社会の階層化とクニの形成

- 一 大宮台地とその周辺の人口集中 三世紀前半頃
  - 集落数の増加と規模の拡大
  - 荒川低地から大宮台地南端部
  - 芝川流域
  - 綾瀬川・元荒川流域
    - コラム 前野町式土器
- 二 金属器・ガラス製品の流通
  - 金属器の普及
  - さいたま市とその周辺の鉄器
  - 青銅器
  - ガラス玉
  - 布を織る技術
    - コラム 刃関双孔鉄剣と柄
- 三 盛んとなった地域間交流
  - 活発化する地域間交流
  - 遠方との交流 本柰遺跡

さいたま市域の吉ヶ谷式土器  
コラム 水上交通の手段 木造船  
コラム 手焙形土器の謎

#### 四 政治的地域社会の形成

倭国の成立  
邪馬台国の時代  
荒川下流域の人々の北方進出  
中核的集落 中耕遺跡  
在来集落の変容  
北武蔵と南武蔵北部の社会状況  
政治的地域社会の形成

## 第二章 古墳時代

### 第一節 古墳時代のあらまし

### 第二節 古墳時代とは

#### 一 古墳時代とは

古墳時代の名称  
古墳の源流  
古墳時代の社会  
日本列島における古墳の出現  
古墳と古墳時代  
古墳時代の時期区分  
前方後円墳の時代  
古墳時代と国家形成

#### 二 古墳時代の年代

相対年代と絶対年代  
年輪年代法  
放射性炭素年代測定法  
古墳時代の開始時期

#### 三 古墳時代の生態環境

古墳時代の植生  
古環境の復元  
古墳時代の自然災害

#### 四 古墳時代の利根川と荒川

古墳時代における大きな河道変化  
古墳時代前期の利根川河道  
古墳時代後期の利根川河道  
コラム さいたま市の古墳文化研究の黎明期

### 第三節 古墳文化波及期のさいたま市

#### 一 荒川低地を巡る初期古墳

古墳成立前夜の動向

比企地域の地形環境

比企地域の初期古墳

児玉地域の地形環境

児玉地域の初期古墳

荒川低地南部地域の地形環境

荒川低地南部地域の初期古墳

#### 二 大型前方後円墳の出現

比企地域の前期大型前方後円墳 ー野本將軍塚古墳ー

児玉地域の前期大型前方後円墳 ー北堀前山第一号墳ー

荒川低地南部地域の前期大型前方後円墳 ー高稲荷古墳ー

北武蔵地域の前期古墳の展開

南武蔵地域の前期古墳の展開

武蔵地域の前期古墳の様相

#### 三 中小有力者の墓 方形周溝墓

古墳時代の方形周溝墓

さいたま市域の方形周溝墓

方形周溝墓の被葬者層

コラム 折り曲げられた鉄剣

コラム 古墳時代の土器

#### 四 古墳時代前期の拠点集落群

荒川低地を巡る四世紀の拠点集落群

生産・流通の拠点集落 反町遺跡

#### 五 荒川低地の開拓集落

鴨川周辺の地形景観

堤根遺跡の灌漑施設

灌漑施設と水田

開拓に従事した集落群

レプリカ法からみた古墳時代前半の穀物栽培

#### 六 多様化する生業

元荒川・綾瀬川流域の集落

盛んな漁労

玉作

鍛冶

#### 七 屋内祭祀の舞台

古墳時代の祭祀

竪穴住居の空間利用  
屋内祭祀の舞台と装置  
集合する小型壺  
廃絶住居の祭祀

#### 第四節 倭の五王の時代のさいたま市

- 一 巨大古墳の世紀
  - 古墳時代中期の内政・外交政策
  - 大王墓の移動
  - 墳丘巨大化の要因
- 二 規制が及んだ地域の古墳
  - さいたま市域の中期古墳
  - 前方後円墳の造営規制
  - 気候変動と中期古墳
- 三 群集墳の出現
  - 群集墳とは
  - 前期から連続する小古墳群
  - さいたま市域の中期古墳と初期群集墳
  - コラム 八王子出土の須恵器
- 四 数少ない有力古墳 白鍬塚山古墳
  - 出土遺物
  - 円筒埴輪
  - 形象埴輪
  - 埴形
- 五 五世紀の集落
  - 居住域の変化
  - 住居平面形態の変化
  - 焼失住居と祭祀
  - 調理具の変化とカマドの設置
  - 鉄製品生産のムラ
- 六 新来の厨房施設 カマド
  - カマドの登場
  - カマドの機能的役割
  - カマドと大型甕
  - さいたま市域におけるカマドの出現
  - カマドを巡る祭祀

#### 第五節 新たな古墳秩序の形成と展開

- 一 埼玉古墳群の成立と展開

- 新たな古墳秩序の形成
  - 交通の要衝に立地する埼玉古墳群
  - 稲荷山古墳の造営
  - 六世紀前半の巨大古墳
  - 埼玉古墳群と武蔵国造の乱
  - 重層化・分散化する六世紀中頃の大型古墳
  - 六世紀後半の大古墳
  - 埼玉古墳群造営の終焉
  - 埼玉郡北部地域に集中する前方後円墳
- 二 五世紀末の有力墓 本柩遺跡第一号墳
  - 古墳の概要
  - 形象埴輪の特徴
  - 埴輪の配置と機能
- 三 埴輪の世界
  - 古墳にみられる身分秩序
  - 埴輪の規格と秩序
  - 埴輪祭祀
  - 例外的な人物埴輪の樹立
  - 埴輪祭祀の『日本書紀』
    - コラム 埴輪馬からみた馬具
- 四 低地帯を囲む後期の古墳群
  - さいたま市域の群集墳と生産基盤
  - 植水古墳群
  - 側ヶ谷戸古墳群
  - 白鍬古墳群
  - 大久保古墳群
  - 土合古墳群
  - 白幡古墳群
  - 元荒川・綾瀬川流域の古墳群
  - さいたま市域の群集墳の動態
  - 群集墳と副葬品
- 五 手工業生産と流通 埴輪
  - 埴輪の成立
  - 五世紀中葉の埴輪
  - 五世紀末から六世紀の埴輪
  - 六世紀後半の埴輪
  - 埴輪生産と須恵器生産
  - 埴輪の終焉
    - コラム 考古資料から読み解く古墳の他界観

## 六 手工業生産と流通 新しい焼き物・須恵器

須恵器生産の開始

須恵器の用途

年代のものさしとしての須恵器

さいたま市内出土の須恵器

さいたま市内出土の須恵器の特徴

古墳時代後期の流通路－鴨川－

## 七 古墳を造った人々のムラと生活

さいたま市域の集落遺跡の分布状況

耕地開発の動向

集落と祭祀

紡錘車と布生産

土師器坏と地域間交流

土師器坏の形態的な特徴

さいたま市内出土土師器坏の組み合わせ

## 八 終末期古墳とその性格

古墳時代の終末と上円下方墳

北武蔵地域の終末期古墳

陸上交通網の整備と古墳

足立評と終末期古墳

## 九 律令社会への胎動

### 第六節 古墳時代の豪族と国造

#### 一 ヤマト政権の誕生と北武蔵地域 －ヤマト政権の傘下へ－

拡大する農業経営と経済活動

ヤマト政権との関係構築

#### 二 金錯銘鉄剣は語る

埼玉古墳群とさいたま市域

金錯銘鉄剣をどうみるか

埼玉地域政権と地方支配

埼玉地域政権とさいたま市域の人々

#### 三 「国造本紀」にみえる武蔵の国造

国造、国造制

国造の地域支配と部民制

ムサシ国造の交替

#### 四 武蔵国造の乱

武蔵国造の乱の記事

笠原直使主の本拠地

南北武蔵の抗争か、北武蔵内の抗争か

磐井の乱と武蔵国造の乱

四処の屯倉の設置

五 評の設置

評の成立

足立評の設置

前玉評の設置

文献一覧

索引（市内遺跡）

執筆者一覧

協力者及び協力機関一覧

市史編さん関係者名簿

あとがき